

中小企業景況レポート

vol.73

2022.10~12

業況判断D I 10月~12月は△8.8と依然マイナス

【2022年10月~12月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断DIは前回調査比で6.1ポイント上昇し△8.8となりました。卸売業以外では前回調査比で改善は見られるものの、依然として製造業以外の5業種において業況判断D Iがマイナスとなっており、景況感は低めで推移しています。

【2023年1月~3月期の予想業況判断D I】

次回調査期間における全業種総合の予想業況判断D Iは今回調査比で0.6ポイント低下し、△9.4となっています。

| 業種名 | 時期 | 2022年 7月~9月 | 2022年 10月~12月 | | 2023年 1月~3月 (予想) | |
|-------|----|----------------|------------------|------------|------------------------|------------|
| 全業種総合 | | ☔ △14.9 | ➡ 6.1 | ☁ △8.8 | ➡ △0.6 | ☁ △9.4 |
| 製造業 | | ☁ 0.0 | ➡ 12.5 | ☁ 12.5 | ➡ △17.5 | ☁ △5.0 |
| 卸売業 | | ☔ △27.3 | ➡ △1.3 | ☔ △28.6 | ➡ 18.6 | ☁ △10.0 |
| 小売業 | | ☔ △21.1 | ➡ 5.3 | ☔ △15.8 | ➡ 2.8 | ☔ △13.0 |
| サービス業 | | ☔ △26.4 | ➡ 10.3 | ☔ △16.1 | ➡ 3.0 | ☔ △13.1 |
| 建設業 | | ☁ △4.9 | ➡ 0.2 | ☁ △4.7 | ➡ △1.6 | ☁ △6.3 |
| 不動産業 | | ☔ △11.1 | ➡ 5.6 | ☁ △5.5 | ➡ 0.0 | ☁ △5.5 |

景況
天気図
の目安

DI
好調 ←

30
以上
☀

10以上
30未満
☁

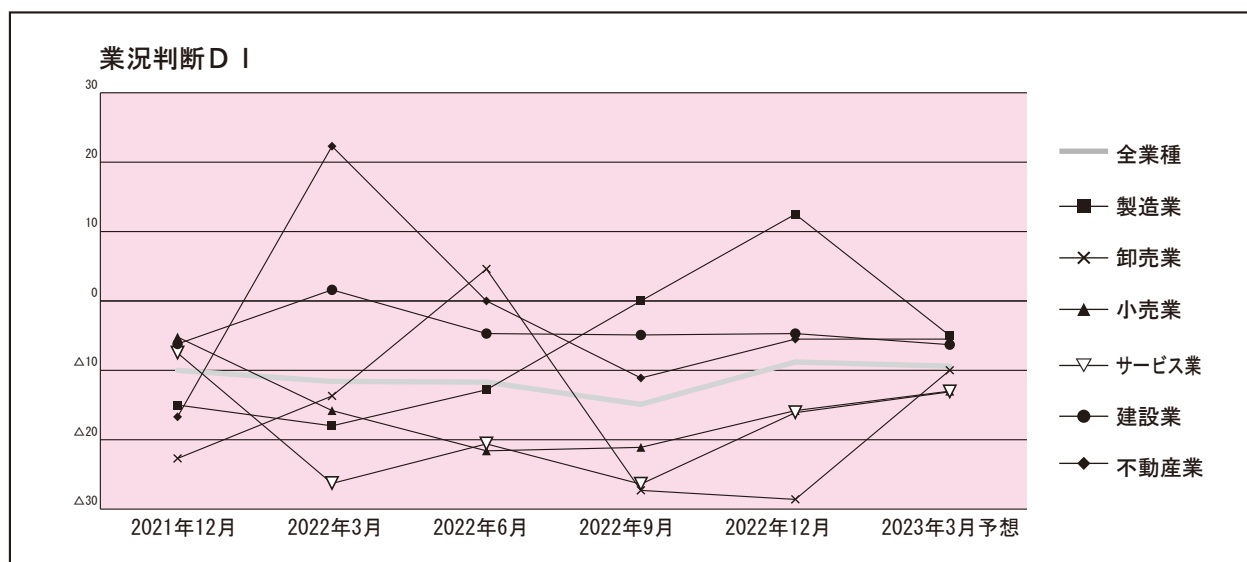
0以上
10未満
☁

△10以上
0未満
☁

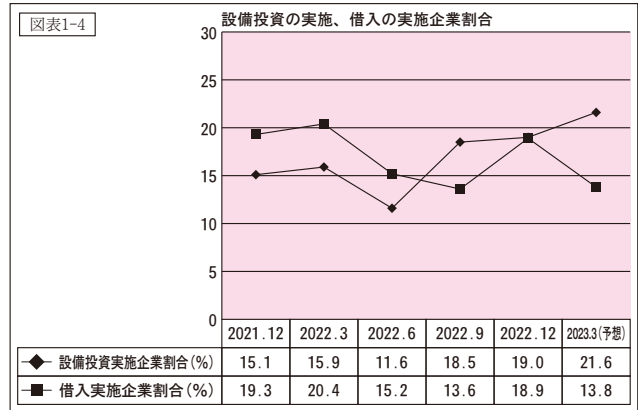
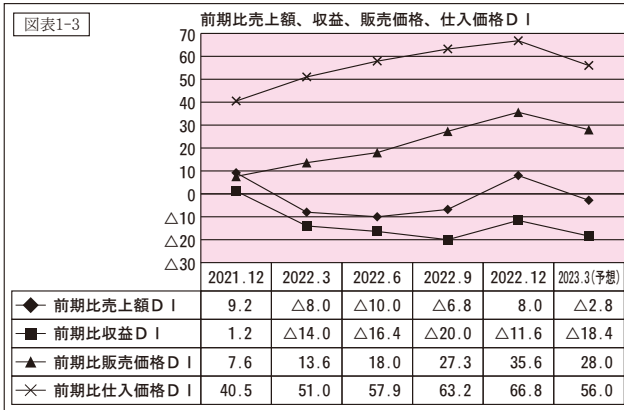
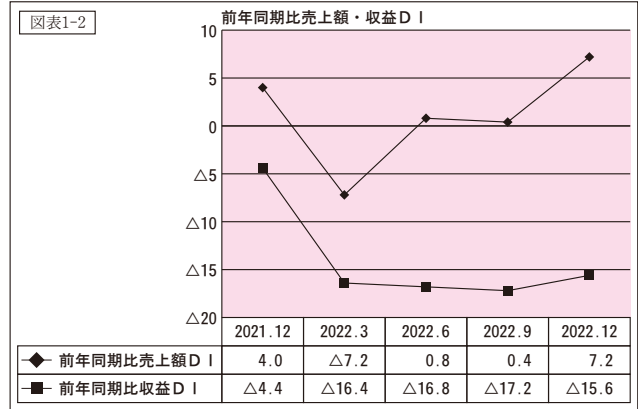
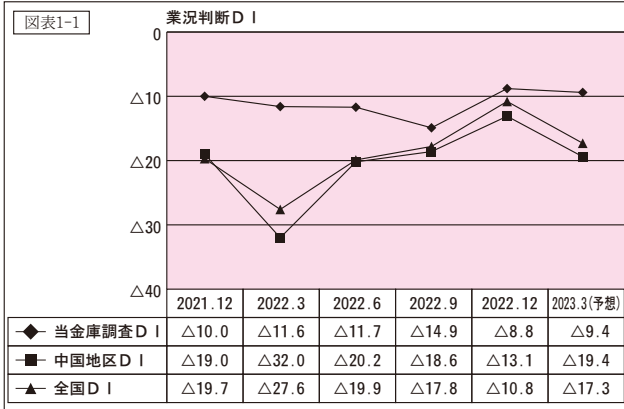
△30以上
△10未満
☔

△30
未満
☔

→ 低調



全業種総合



景況 ～業況判断D Iは△8.8 前回調査比プラスも依然マイナス～

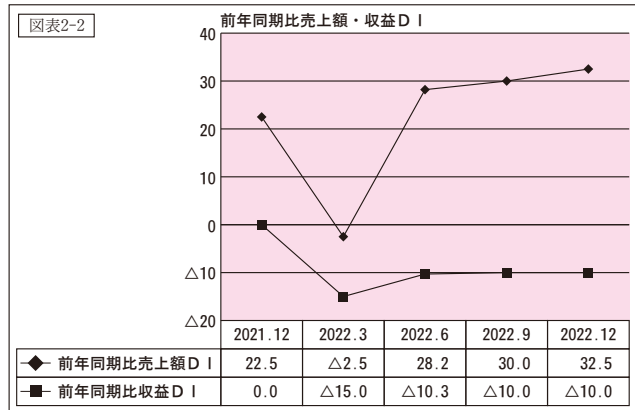
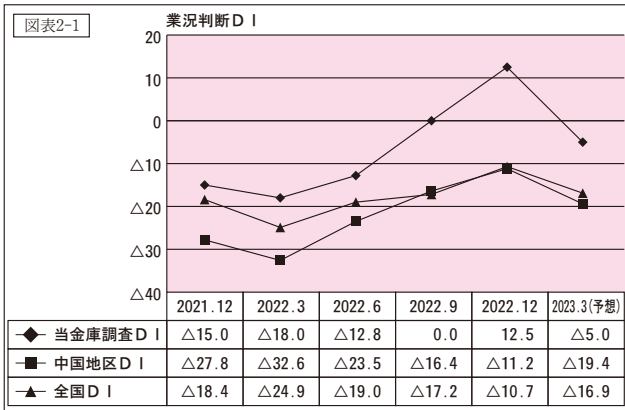
今期の業況判断D Iは全業種総合で前回調査比**6.1ポイント上昇**し△14.9→△8.8となりました。マイナスでの推移が続いていますが、中国地区D I（△13.1）、全国D I（△10.8）と比較して当金庫営業エリアにおける景況感が高めに推移しています。次回調査期間（2023年1月～3月）の予想業況判断D Iは△8.8→△9.4と、今回調査比**0.6ポイントの低下予想**となっています。新型コロナウイルス感染症および原材料や燃料費の高騰の影響が続いており、景況感は低調に推移するものと予想されます（図表1-1）。

前年同期比売上額D Iは7.2、同収益D Iは△15.6となっています。売上額・収益共に改善しており、一部製造業の生産面の持ち直しや、消費マインドの改善が影響していることが想定されます（図表1-2）。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は19.0%となり、前回調査比0.5ポイントの上昇。借入を実施した企業の割合は18.9%となり、前回調査比5.3ポイントの上昇となりました。次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は21.6%であり、今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して2.6ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は13.8%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して5.1ポイントの低下となっています（図表1-4）。

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業は40.0%（前回調査比△6.2ポイント）にのぼっているものの、半数以上の企業が設備投資を実施予定であることが窺えます。

製造業



景況 ～今期大幅上昇 来期は大幅低下の予想～

今期の業況判断D Iは0.0→12.5と前回調査比12.5ポイントの大幅上昇となりました。また、来期の予想業況判断D Iは12.5→△5.0と17.5ポイントの大幅低下予想となっています(図表2-1)。

今回調査期間中に日本銀行より発表された岡山県金融経済月報によると、県内主要製造業の生産は海外経済の減速等の影響から増加が一服しているとの判断となっており、自動車においては供給制約の影響が再び強まるもど、改善が足踏みしているとなっています。

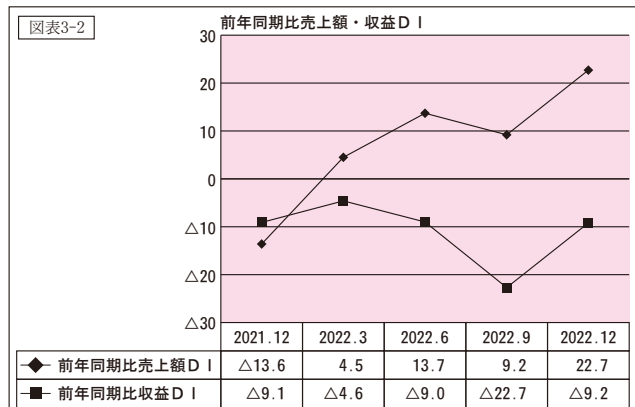
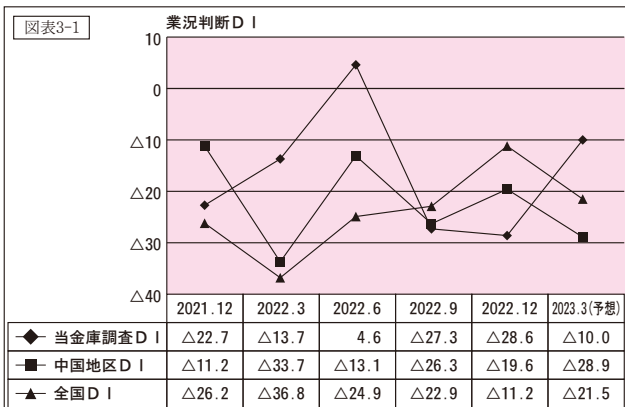
経営上の問題点において「原材料高」の回答が引き続き最も多くなっており、それに対応するため「経費を節減する」を重点経営施策にしている企業が増えています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| 経営上の問題点 | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|--------|-------|----------|-------|---------------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 原材料高 | 60.0% | 売上の停滞・減少 | 32.5% | 人手不足 利幅の縮小 | 25.0% |
| 当面の重点経営施策 | 販路を広げる | 57.5% | 経費を節減する | 42.5% | 人材を確保する | 35.0% |

卸売業



景況 ～今期低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△27.3→△28.6と前回調査比1.3ポイントの低下となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△28.6→△10.0と18.6ポイントの大幅上昇予想となっています(図表3-1)。

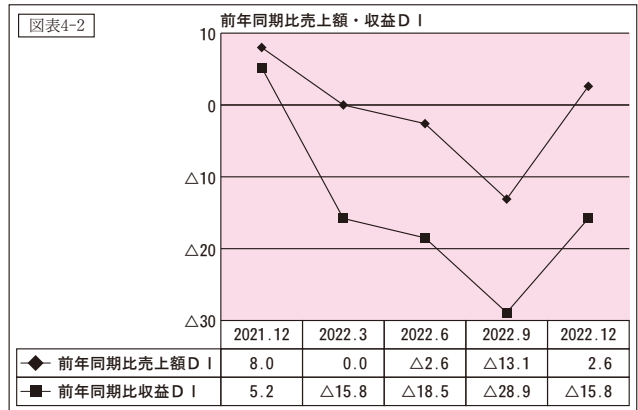
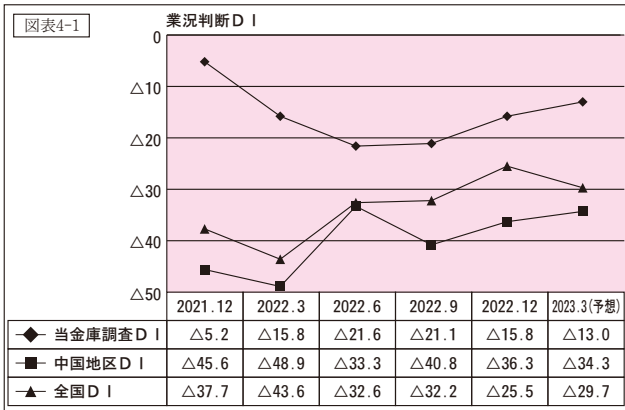
経営上の問題点としては「仕入先からの値上げ要請」の回答が最も多く、物価高騰の影響が出ているものと思われます。「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」も引き続き多く、販路開拓によって売上の増強を図る企業が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| 経営上の問題点 | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|-------------|-------|----------|-------|---------------------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 仕入先からの値上げ要請 | 36.4% | 売上の停滞・減少 | 31.8% | 同業者間の競争の激化 利幅の縮小 | 27.3% |
| 当面の重点経営施策 | 販路を広げる | 77.3% | 経費を節減する | 40.9% | 情報力を強化する | 31.8% |

小 売 業



景 況 ～今期上昇 来期も上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△21.1→△15.8と前回調査比**5.3ポイントの上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△15.8→△13.0と**2.8ポイントの上昇予想**となっています（図表4-1）。

経営上の問題点において、「仕入先からの値上げ要請」が増加しており、製造業、卸売業から連鎖的に原材料・物価高騰の影響が出ているものと思われます。

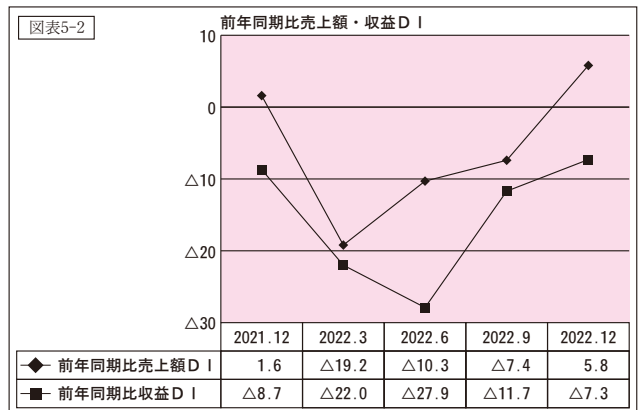
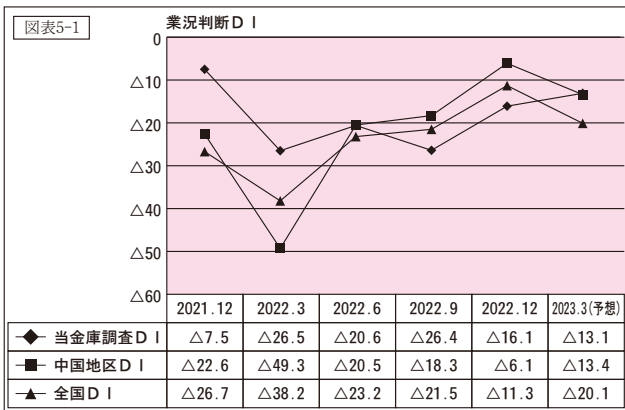
当面の重点経営施策では「経費を節減する」との回答が増加しており、利益確保のため支出面を見直す企業が増加しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|----------|-------|-------------|-------|-----------------------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 売上の停滞・減少 | 36.8% | 仕入先からの値上げ要請 | 31.6% | 同業者間の競争の激化 販売商品の不足 | 21.1% |
| 当面の重点経営施策 | 経費を節減する | 39.5% | 売れ筋商品を取扱う | 34.2% | 販路を広げる | 26.3% |

サービスマ



景 況 ～今期大幅上昇 来期も上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△26.4→△16.1と前回調査比**10.3ポイントの大幅上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△16.1→△13.1と**3.0ポイントの上昇予想**となっています（図表5-1）。

消費マインドの改善から、今期の大幅上昇に続き上昇予想となっているものと想定されます。

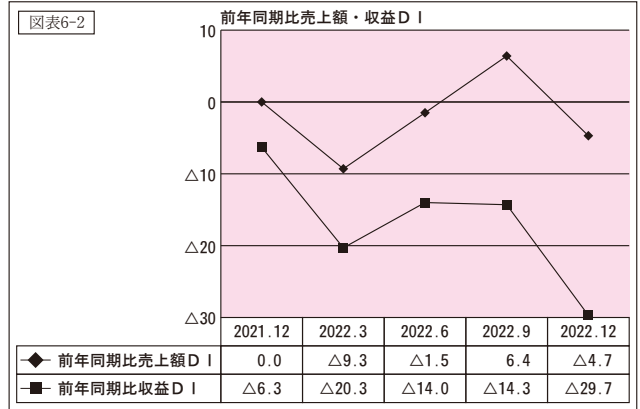
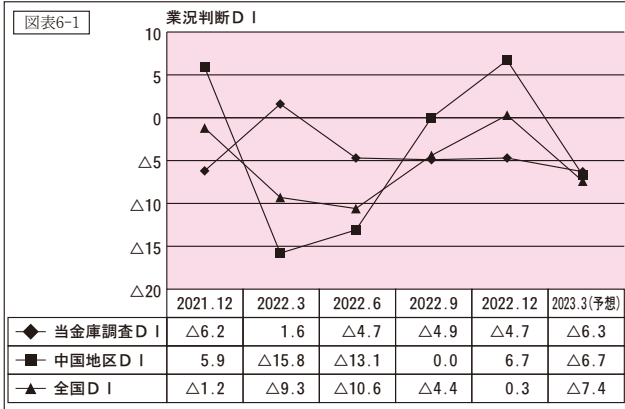
経営上の問題点として「利幅の縮小」との回答が大幅に増加し、それに対応するように当面の重点経営施策では「経費を節減する」との回答が大幅に増加しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|----------|-------|---------|-------|---------------------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 売上の停滞・減少 | 41.2% | 材料価格の上昇 | 38.2% | 利幅の縮小 | 29.4% |
| 当面の重点経営施策 | 経費を節減する | 57.4% | 販路を広げる | 41.2% | 人材を確保する 技術力を強化する | 17.6% |

建設業



景況 ～今期上昇 来期は低下の予想～

今期の業況判断D Iは△4.9→△4.7と前回調査比0.2ポイントの上昇となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△4.7→△6.3と1.6ポイントの低下予想となっています（図表6-1）。

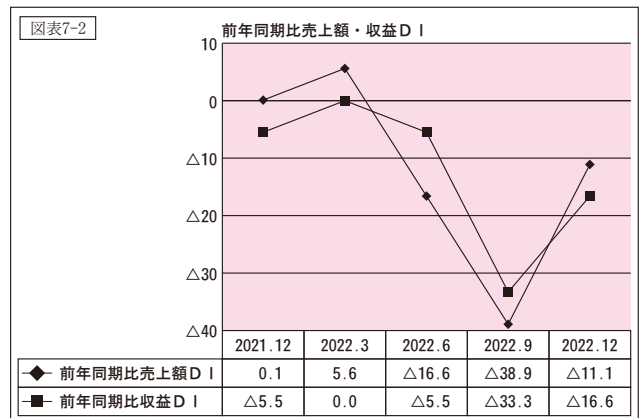
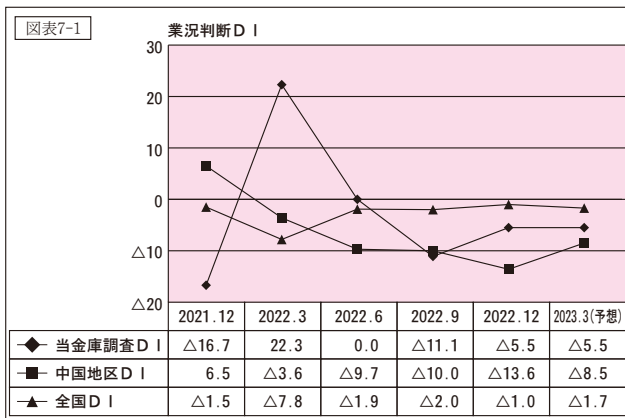
景況感について大きな変化は無いものの、資材の供給不足は続いており、来期は低下予想となっています。経営上の問題点として「材料価格の上昇」との回答が増加し、最も多くなっています。また、「人手不足」との回答も増加しており、それに対応するように重点経営施策として「人材を確保する」をあげている企業が増加しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|---------|-------|--------|-------|----------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 材料価格の上昇 | 70.3% | 人手不足 | 35.9% | 売上の停滞・減少 | 34.4% |
| 当面の重点経営施策 | 経費を節減する | 50.0% | 販路を広げる | 39.1% | 人材を確保する | 35.9% |

不動産業



景況 ～今期上昇 来期は現状維持の予想～

今期の業況判断D Iは△11.1→△5.5と前回調査比5.6ポイントの上昇となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△5.5→△5.5と現状維持予想となっています（図表7-1）。

依然として「商品物件の不足」を問題点としている企業が最も多く、その影響から「商品物件の高騰」、「同業者間の競争の激化」を問題点として回答する企業が大幅増加しています。重点経営施策として「情報力を強化する」をあげている企業が最も多く、商品物件の確保のため積極的に活動する企業が多くなっていることが予想されます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|----------|-------|---------|-------|-----------------------|----------------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 商品物件の不足 | 44.4% | 商品物件の高騰 | 38.9% | 同業者間の競争の激化 | 33.3% |
| 当面の重点経営施策 | 情報力を強化する | 50.0% | 販路を広げる | 33.3% | 経費を節減する 宣伝・広告を強化する | 27.8% 27.8% |

調査先企業の声

製造業

- ・小ロットでの受注や問合せが増えてきている。今後は受注先との取引拡大および単価交渉に努める方針。【織物】
- ・技術力を取引先に評価していただいております、安定経営ができています。【鉄工溶接】
- ・売上増加以上に原材料価格高騰による収益悪化が懸念される。新型コロナウイルス感染症の影響から現場作業員不足に陥るリスクも包含しており不安。【鋼製物】

卸売業

- ・新規の事業展開の構想はあるが、新型コロナウイルス感染症の影響等先行き不透明でありスタートに踏み切れない。【農業資材】
- ・仕入価格高騰しているが、取引先との交渉により価格転嫁できている。【清掃用品】
- ・輸入品の値上がりに加えて国内仕入先の特産品の不作の影響もあり、全体的に仕入価格が高騰している。【青果物】

小売業

- ・半導体不足や大手メーカーの不正問題により車両製造が滞ったため、売上に大きな影響が出ている。【自動車】
- ・鮮魚価格の高騰から販売数量減少しているが、惣菜、加工品に注力し売上高増加に取り組んでいる。【鮮魚】
- ・M&Aにより店舗数拡大し、売上増加している。【医薬品】

サービス業

- ・コロナ禍以降、事業者のIT導入が進み、業況順調。人材の確保および教育が当面の課題。【ソフトウェア】
- ・燃料費高騰の影響が大きく収益悪化見込み。料金値上げに踏み切れておらず、業界動向を注視している。【タクシー】
- ・受注安定しているものの、新たに導入予定の作業車が半導体不足により納車遅延となっている。【レッカー作業】

建設業

- ・主要取引先からの受注安定しており、業況についても安定推移見込み。【建築】
- ・若い従業員を確保したいが、採用活動でなかなか成果が出ていない状況。【土木工事】
- ・材料価格の高騰が続いており、利益を圧迫している。【左官】

不動産業

- ・地価が上昇しており仕入値の高騰が悩み。良い物件は当然他社との競争となるため、早く情報を手に入れることが重要になっている。【不動産販売】
- ・業況に大きな変化は無いものの、従業員の確保ができておらず人手不足の状況が続いている。【不動産賃貸】
- ・売上停滞気味。今後は引き続き販路拡大を目指すとともに今まで以上に経費削減に注力する。【不動産仲介・リフォーム】

おかやましんきんビジネスローン 「夢応援団」のご案内

おかやま信用金庫では、法人のお客さま専用にあらゆる事業性資金にスピード対応できる商品を取扱いしております。ご利用に関するお問い合わせは、お取引いただいております当金庫営業部店または価値創造部までご連絡ください。

記

<商品の特徴>

- ・スピード審査（仮審査は、15:00までの受付は当日回答）
- ・担保不要
- ・信用保証協会対象外業種である農林水産業の法人もご利用可能
- ・「期限一括返済」が可能
- ・一定の条件を満たせば、創業資金への対応可能
- ・3段階の金利設定

<商品説明>

1. 商品名
おかやましんきんビジネスローン「夢応援団」（株式会社クレディセゾン保証付）
2. 対象者
以下の要件を全て満たし、株式会社クレディセゾンの保証が受けられる法人のお客様
 - ・原則として当金庫に口座を保有している業歴2年以上の法人
※業歴2年未満でも、商工会議所や商工会などの創業支援組織に加盟し、当金庫が推薦する場合は可とします
 - ・信用保証協会対象業種であること。ただし、農林水産業も可とします
 - ・当金庫の営業区域内に本店または支店を置く法人
 - ・反社会的勢力に該当しない方
 - ・当金庫の会員であること
3. 資金使途
事業資金（借換も可）
4. 融資限度額
10万円以上500万円以下（1万円単位）、ただし業歴2年未満の場合は200万円を上限とします
5. 融資期間
6ヵ月以上10年以内（業歴2年未満の場合は5年以内）
※期日一括返済の場合は最長1年以内
6. 返済方法
毎月5千円以上の元金均等返済、または、期日一括返済（毎月利払い、最終期限に元金一括返済）
7. 融資利率（保証料込み）
固定金利
・パターン1／年4.00% ・パターン2／年7.00% ・パターン3／年11.00%
※金利については、審査のうえで決定させていただきます
8. 担保
不要
9. 連帯保証人
法人代表者様（実質的支配者であり、申込時年齢が20歳以上の方）
10. 保証会社
株式会社クレディセゾン

以 上

調査の要領

- 1) 調査時点 2022年12月1日～7日
- 2) 調査対象期間 2022年10月～12月
- 3) 調査対象 250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
- 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による聞き取り調査
- 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断DI）を中心に分析
※DI＝ディフュージョン・インデックスの略
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格DIについては逆）
- 6) その他 全国DIならびに中国地区DIは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

回答率

（単位：先、%）

| | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 回答企業数 | 40 | 22 | 38 | 68 | 64 | 18 |
| 回答率 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

従業員数

（単位：先）

| 業種 (単位：人) | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 計 | 構成比 |
|--------------|-------|------|-------|-------|-------|------|--------|--------|
| 0～9 | 22 | 15 | 33 | 46 | 49 | 16 | 181 | 72.4% |
| 10～19 | 4 | 2 | 3 | 8 | 8 | 2 | 27 | 10.8% |
| 20～29 | 9 | 3 | 0 | 7 | 7 | 0 | 26 | 10.4% |
| 30～49 | 1 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 7 | 2.8% |
| 50以上 | 4 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 9 | 3.6% |
| 計 | 40 | 22 | 38 | 68 | 64 | 18 | 250 | 100.0% |
| 構成比 | 16.0% | 8.8% | 15.2% | 27.2% | 25.6% | 7.2% | 100.0% | |

資本金

（単位：先）

| 業種 (単位：千円) | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 計 | 構成比 |
|---------------|-------|------|-------|-------|-------|------|--------|--------|
| 10,000未満 | 20 | 7 | 24 | 35 | 34 | 8 | 128 | 51.2% |
| 10,000～49,999 | 17 | 15 | 13 | 30 | 30 | 10 | 115 | 46.0% |
| 50,000～99,999 | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 6 | 2.4% |
| 100,000以上 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0.4% |
| 計 | 40 | 22 | 38 | 68 | 64 | 18 | 250 | 100.0% |
| 構成比 | 16.0% | 8.8% | 15.2% | 27.2% | 25.6% | 7.2% | 100.0% | |

編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断DIは前回調査比で6.1ポイント上昇し△8.8となりました。多くの業種で業況判断DIが上昇しており、年末年始に向けた消費マインドの改善が影響したものと思われます。しかしながら新型コロナウイルス感染症および原材料や燃料費の高騰の影響は続いており、来期の全業種総合の予想業況判断DIは低下予想となっています。おかやま信用金庫では引き続き、地元岡山の中小企業の皆様の実情をしっかりと把握したうえで、迅速で最適な支援をおこない地域経済を支えてまいります。



おかやま信用金庫
価値創造部

— 2023.2 —

〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
TEL:フリーダイヤル 0120-173-299(ガイダンス番号5)
FAX:086-226-2288
http://www.shinkin.co.jp/okayama/
e-mail:sien@okayama.shinkin.jp